

島根県沿岸域におけるクジラ類の目視情報 — 2005年～2007年の事例 —

中村初男¹

Sighting records of whales in the coastal waters off Shimane — a case in 2005 to 2007 —

Hatsuo NAKAMURA

キーワード：クジラ類，島根県沿岸域，目視

はじめに

筆者は島根県農林水産部水産課所属の漁業取締船「せいふう」に乗船中，監視業務のなかでしばしばクジラ類を目撃する機会を得た。クジラ類が海岸に漂着したり，河口や湾口等に迷いこんだりする現象はマスコミに取り上げられてよく耳にするが，海洋を遊泳している情報はきわめて少ないように思える。そういったことから，これまでに得られた事例を記録・整理して報告することにした。

目視状況

2005年～2007年に「せいふう」の巡視航海中にクジラ類と視認した結果を付表に示した。クジラ類は呼吸のため水面に浮上するが，その時間は一瞬であり，大きさや種類を特定することはできなかった。ただ，水面上に露出した背中の一部からそれらがクジラ類であることは疑う余地がない。16事例のうち5月下旬～9月上旬までの夏季の事例がほとんどを占めている。これはこの時期は海況が穏やかで目視し易いこと及び「せいふう」の行動範囲が大きく稼動日数も多いためであろう。

視認位置とクジラ類の遊泳方向を図に示した。航海の範囲内では特に分布が集中しているような海域は認められなかった。遊泳方向は西向きが2例，南西向きと北西向きがそれぞれ1例，北向きが2例，東

向きが1例で，西寄りへの移動がやや強い傾向にある。

おわりに

筆者は1992年4月に「せいふう」に船長として赴任したが，2004年まではクジラ類の目認は年に1～2回程度であったように思う。2005年になって視認する機会が増加し，そのことが今回の記録を始めた動機付けになっている。

日本周辺海域のクジラ類が近年増加しているという報告もあり，実際に日本海南西部沿岸海域周辺においてもこれまでになかったクジラ類と高速艇との接触事故も起こっている¹⁻³⁾。これらのことや「せいふう」の乗船中に実感したことも含め，島根沿岸域におけるクジラ類の来遊量は増加傾向にあることが伺える。

参考文献

- 1) 2005年6月27日付け山陰中央新報.
- 2) 2006年4月11日付け山陰中央新報.
- 3) 2006年4月11日付け朝日新聞.

¹ 現所属：内水面浅海部 Inland Water Fisheries and Coastal Fisheries Division

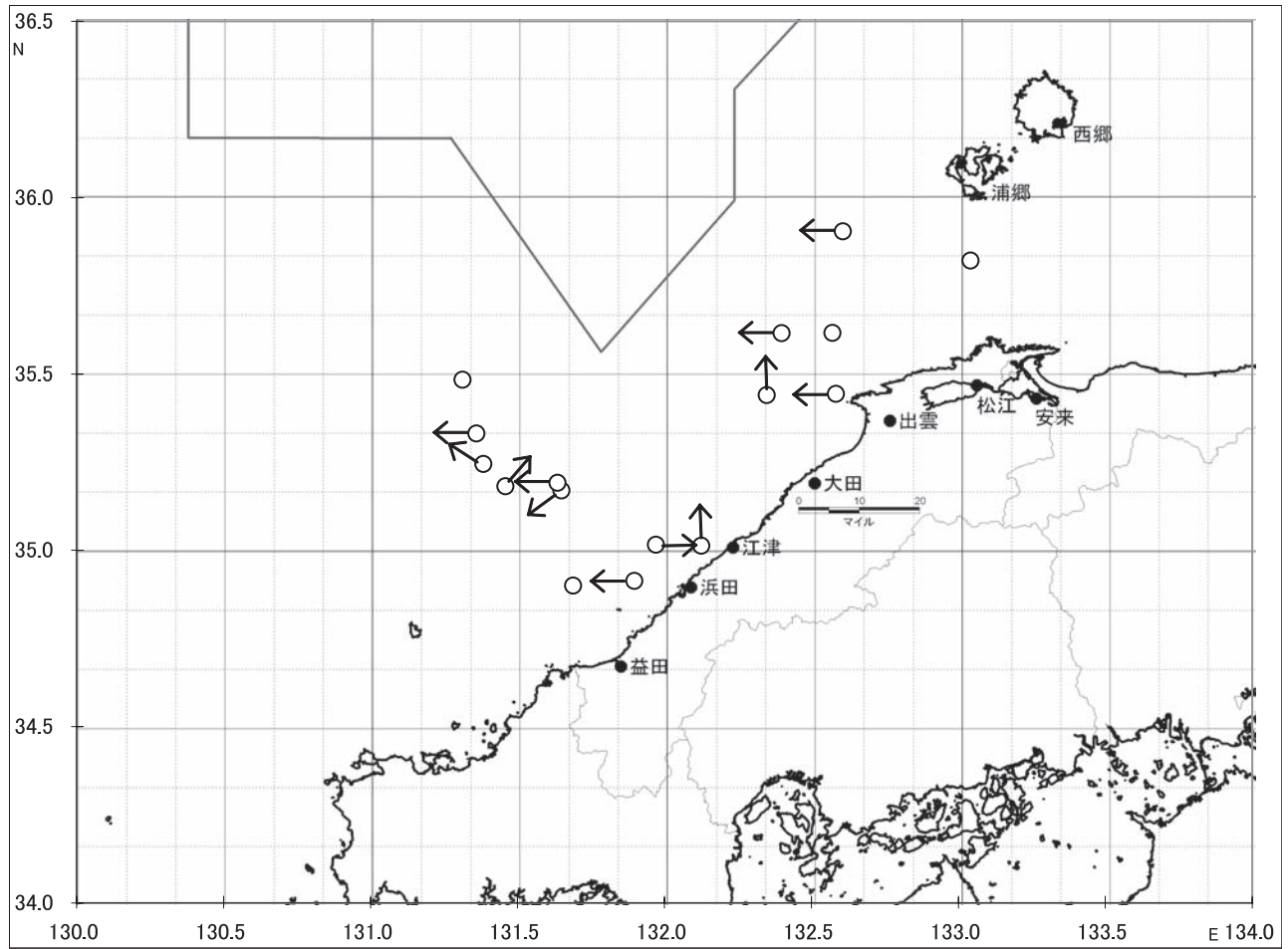


図. クジラ類の目視位置 (白丸) と遊泳方向 (矢印は遊泳していく方向を示す)

付表. クジラ類の視認事例一覧

	期日	緯度	経度	頭数	遊泳方向	備考
1*	2005/7/29	35° 37.00'	132° 34.30'	2	-	
2	2005/7/30	35° 29.00'	131° 18.80'	1	-	
3	2006/5/24	35° 10.16'	131° 39.02'	1	南西	
4	2006/5/24	35° 14.68'	131° 23.05'	2	北西	
5	2006/5/24	35° 10.87'	131° 27.57'	1	北東	
6	2006/5/29	35° 00.78'	132° 07.52'	1	北	
7	2006/6/6	35° 11.50'	131° 38.20'	1	北西	
8	2006/6/14	35° 19.88'	131° 21.64'	1	西	
9	2006/7/7	35° 36.95'	132° 23.95'	1	西	
10	2006/8/10	35° 00.94'	131° 58.29'	1	東	
11	2007/6/28	35° 49.30'	133° 2.50'	2	-	
12	2007/7/24	35° 26.40'	132° 20.90'	1	北	
13	2007/8/21	34° 54.00'	131° 41.40'	1	-	ジャンプ
14	2007/9/4	34° 54.80'	131° 53.90'	1	西	ジャンプ
15	2007/10/4	35° 26.63'	132° 35.04'	1	西	噴気、小型個体
16	2007/11/14	35° 54.25'	132° 36.44'	1	西	

*: 2005年はこれ以前にもかなり目撃した。